

該当者は、必要事項記入のうえ、
「月額変更願」に添付のこと。

【平成 22 年度以降採用：増額希望者】 ～変更後の借用金額（総額）の計算方法～

※一貫制博士課程に在学する者は、修士課程相当（1,2 年次）は修士課程相当分のみの借用金額を計算し、博士後期課程相当（3～5 年次）は修士課程相当を含む 5 年分を計算して下さい。

変更前の 貸与額	$\left\{ \begin{array}{c} \text{年月} \\ \text{貸与始期} \end{array} \sim \begin{array}{c} \text{年月} \\ \text{変更前の最終振込月} \end{array} \right\} \times \begin{array}{c} \text{ケ月} \\ \text{貸与月数} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{円} \\ \text{貸与月額} \end{array} = \begin{array}{c} \text{円} \\ \text{変更前の貸与額} \end{array}$
	複数の月額がある場合 $\left\{ \begin{array}{c} \text{年月} \\ \text{貸与始期} \end{array} \sim \begin{array}{c} \text{年月} \\ \text{変更前の最終振込月} \end{array} \right\} \times \begin{array}{c} \text{ケ月} \\ \text{貸与月数} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{円} \\ \text{貸与月額} \end{array} = \begin{array}{c} \text{円} \\ \text{変更前の貸与額} \end{array}$
	$= \begin{array}{c} \text{円} \\ \text{変更前の貸与額合計} \\ \text{(複数の月額がある場合)} \end{array}$

+

変更後の 貸与額	$\left\{ \begin{array}{c} \text{年月} \\ \text{増額始期月} \end{array} \sim \begin{array}{c} \text{年月} \\ \text{貸与終期} \end{array} \right\} \times \begin{array}{c} \text{ケ月} \\ \text{貸与月数} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{円} \\ \text{変更後の貸与月額} \end{array} = \begin{array}{c} \text{円} \\ \text{変更後の貸与額} \end{array}$
-------------	---

+

(第二種の増額希望者のみ) 入学時特別増額貸与奨学金	円
-------------------------------	---

||

貸与総額	円
------	---

【減額希望者】 ～年度内精算が可能かどうかの計算方法～

A：要精算額 月額差額（変更前の月額－変更後の月額） × 減額始期から反映月前月までの月数 $\text{円} \times \text{ケ月} = \text{円}$	$\leq$	B：（減額後）今年度内の振込予定額 変更後の月額 × 反映月から今年度末（3 月）までの月数 $\text{円} \times \text{ケ月} = \text{円}$
---	--------	--

年度内精算
OK!

※年度内精算が可能な減額始期の求め方

(例) 月額変更願 9 月提出 (反映月 10 月)：8 万円→3 万円減額 (月額差額 5 万円) の場合

減額後の今年度内振込予定額 (3 万円×6 ケ月 (10 月－3 月) = 18 万円) 以内で、月額差額を精算には、

18 万円 / 差額 5 万円 = 3.6

反映月の前 3 ケ月以内でなければ精算不可 → 年度内精算が可能な減額始期は 7 月以降